

# にほんやまね

(2004年12月19日正午ごろ 採草地)

にほん す じゅんげつめつき ぐしゅ てんねんきねんぶつ  
日本にだけ棲んでいる準絶滅危惧種で、天然記念物  
です。大きさはネズミくらい。夜行性で、1年のうち  
おお やこうせい ねん  
およそ半年は木の穴などで冬眠をします。冬眠はツキ  
はんとし き あな とうみん とうみん  
ノグマもしますが、クマは巣の中で活動をしている  
す なか かつどう  
のに対し、ヤマネは体温を下げて完全に眠ります。  
たい たいおん さ かんぜん ねむ  
ふゆ き たお き あな ころ お  
冬に木が倒れると、木の穴からヤマネが転がり落ち  
ることがありますが、それでも眠り続けます。そんな  
ねむ つづ  
様子から、木の妖精とも「ねぼすけ」とも。また、丸  
ようす き ようせい まる  
くなって眠る様子から「鞠ねずみ」とも言われます。  
ねむ ようす まり い  
はな かじつ こんちゅう ことり たまご た  
花や果実、昆虫、小鳥の卵などを食べます。



晩秋になると、木の穴や落ち葉の中で冬眠に入ります。穴の中を木の皮やコケでふかふかにしています。

背中に黒い線が入っているのが、1番の特徴です。